

令和6年度

入学試験問題

帰国生

国語

- 1 問題用紙は^{かんとくしゃ}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点^{くどうてん}や符号^{ふごう}は一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから13ページまであります。

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	------------	--

森村学園中等部

一 次の①～⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① すいかをキン|トウ|に切る。
- ② 組織のカイ|カク|に取り組む。
- ③ 安全なりヨウ|イキ|で休む。
- ④ 各国のシユ|ノウ|が国際会議に集^{つど}う。
- ⑤ けんかをチュウ|サイ|する。
- ⑥ 書店にシユウ|カンシ|を買いに行く。
- ⑦ 祭りで道路がコン|ザツ|する。
- ⑧ 天然資源にト|む|国。
- ⑨ 議案の骨子|をまとめる。
- ⑩ 先生の胸中|を察する。
- ⑪ のきしたで雨|宿|りする。
- ⑫ 村にはそまつな|人家|が立ち並んでいる。

三 次の問いにそれぞれ答えなさい。

- 問一 次のあげた各文の（ ）に当てはまる言葉として最も適当なものを後の語群からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（一つの記号は一度しか使えないものとします）
- ① 彼の靴くつが玄関げんかんにある。（ ） 彼は来たようだ。
- ② （ ） 来たとしても、もうどうにもならない。
- ③ こんな雪の日に（ ） 来るまい。

語群

ア まったく イ まさか ウ どうやら エ あるいは オ たとえ

問二 次の漢字の中から四字を組み合わせて四字熟語を三つ作ると、一つだけあまる漢字があります。それはどの字ですか。それぞれ答えなさい。

- ① 一 三 四 六 八 十 十 苦 苦 束 色 人 文
- ② 業 成 大 応 器 臨 自 音 得 機 晚 変 自

問三 次のA群の言葉とB群の言葉から一つずつ組み合わせ、慣用句を四つ作ると、組み合わせることができない言葉がA群とB群にそれぞれ一つずつあります。それはどの言葉ですか。答えなさい。

① A群

目を	耳を	鼻を	舌を	腹を
----	----	----	----	----

B群

明かす	割る	ぬすむ	広げる	貸す
-----	----	-----	-----	----

② A群

骨身に	水に	板に	小耳に	函に
-----	----	----	-----	----

B群

乗る	つく	はさむ	しみる	かける
----	----	-----	-----	-----

問四 次の——の部分には、言葉の使い方の上で誤りがあります。文章の意味が変わらないように——の部分それぞれ正しく直し、

書きなさい。

- ① リーダーに求められる役割は、チームを統率し、メンバーの結束を高める。
- ② 今日の放課後に、私は本を、彼はサッカーをする予定です。
- ③ 新商品は多くのメディアで取り上げられ、売り上げも期待している。

問五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日、客が森村君の母親を訪ねて来ましたが、母親は不在でした。

そこで、森村君は客に次のように言いました。

「せっかく①来たのに申し訳ありません。

②お母さんは近くのスーパーに買い物に行っていて、今、家におりません。

電話で伝えましたら、お客様にお待ちいただくようにと③言っていました。

そろそろ帰って来ますので、お待ちください。」

問い ———— ①「来た」・②「お母さん」・③「言って」は、客に應對する言葉として適切ではありません。それぞれ適切な敬語表現に直しなさい。

問六 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

最近、今年の夏デパートの昆虫売り場で働いていたという人と知り合いになった。彼の売り場には足のもげたカブト虫などを持った子供たちが訪れてくる。その子供たちは大抵こう言うのだそうである。「カブト虫がこわれちゃったので修理してください。」

「Aカブト虫は生き物だからね……」彼は仕方なく説明をはじめめる。物は修理できても生き物をB「修理」することはできない。ところがデパートにカブト虫の「修理」を頼みに来る子供たちは、不思議なほどこのことが理解できない。多分生き物という言葉の意味がわかっているならば、あるいは親が生き物の飼い方を教えていけば、そもそもデパートにカブト虫の「修理」を頼みには来ないのだろうと彼は言っていた。

彼は長い時間をかけて生き物の意味を教えるようにしていた。ところがそのために上司から注意を受けなければならなかった。デパートとしては売り上げに*寄与しない仕事をされたのでは*人件費の無駄使いである。それからC彼の職場には新しい制度ができた。彼の仕事はこんなふうに変わった。

「カブト虫を修理してください」と言って子供たちが来る。彼は「ハイ、わかりました」と言いながらカブト虫を受け取り、カーテンで仕切られた奥の部屋に持って行く。売り場に戻って子供たちに言う。「いま修理していますからね。もう少し待っていて下さい。」しばらくすると彼はまた奥の部屋に行く。そうして、はじめから用意されていた別のカブト虫を持って現われる。「ハイ、直りましたよ」と言って渡す。

もちろん「修理」代はカブト虫一匹の値段と同じである。これならデパートとしてはちゃんと売り上げになっている。足のもげたカブト虫はゴミとして捨てられるとしても、こうして彼は子供たちのためにD「無料」の説明をする必要はなくなった。

「なんとという労働をしていたのだろうね」彼は笑っていた。「こんな話は笑いながらするしかないのだろうね」と言った。

生き物を物として扱うこと、それは自分が生き物であることを投げ捨てることでもあったのである。多分彼は、生き物を物として扱うしかない制度や管理ができ上がっている自分の職場のことを、そうしてこの制度に従うしかない自分の労働のことを言いたかったのだろう。だが生き物を商売に使うことは、必ずこういう問題を生み出してしまうのだろうか。

僕は以前にノミのサーカスを見に行つたことがある。入場料を払うと狭いカーテンの中に案内され、客は手渡された虫メガネを片手に、白い布のかけられたテーブルの周りに陣取るのである。箱が開けられると数匹のノミが出てきて、整列をしたり、小さな小さな

* 御所車ごしよぐるまをひいたり、輪の間を跳とんでみせたりする。

* 座長氏に教えてもらったのだけれど、ノミに芸を教えるコツは食事に自分の血を与あたえることなのだそうである。食事の時間になるとノミたちは彼の腕うでに乗うって血を吸う。もう馴なれてしまっているからカユくないのだとか。そのうち一匹だけ芸を覚えるノミが出てきて、そうすると他のノミも真似まねをするようになる。

ノミのサーカスも生き物を商売に使っていた。しかしEあのデパートの昆虫売り場の話とはどこかが違ちがっている。座長氏とノミは同じ生き物として一いっしょ緒しよに生きていた。

(注)

(内山節うちやまたかし『自然と労働』より)

* 寄与きよする……役立つ。

* 人件費……働いている社員に支払しはらわれる給料。

* 御所車……平安時代に身分の高い人が用いた乗り物。囲いと屋根がついている牛車。

* 座長氏……ここでは、ノミのサーカスのリーダー、という意味。

① —— A「カブト虫は生き物だからね……」とありますが、この「……」からは、「彼かれ」のどのような気持ちを読み取れますか。その

説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A カブト虫を「修理してください」という間違まちがった日本語しか話せない子供がいることをなげく気持ち。

I 足がもげているくらいでまだ生きていますカブト虫を買い直そうとする冷酷れいこくな子供たちに驚おどろく気持ち。

ウ 生き物であるカブト虫は修理できるものではないということがわからない子供たちにとまどう気持ち。

E 子供にカブト虫を買い与あたえるだけで、飼かい方を教えずに放はなつておく無責任な親に腹を立てる気持ち。

② ——— B 『修理』することはできない」で用いられている「ない」について、言葉のきまりの上で同じ使い方のものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自転車はルールを守って乗っているかぎり危険はない。

イ 兄は強がっているが、いざという時にたよりない。

ウ 港は海からの風が吹いてくるので、それほど暑くない。

エ 友達が先に来ているはずなのに、姿が見当たらない。

③ ——— C 「彼の職場には新しい制度ができた」とありますが、新しい制度では、子供たちにカブト虫の修理をたのまれたらどうするのですか。「受け取ったカブト虫を」の書き出しに続くように三十五字以上四十五字以内で簡潔に説明しなさい。

④ ——— D 『無料』の説明」とは、本文中では「彼」が何をすることを指していますか。「くこと。」につながるように本文中から十字で抜き出しなさい。

⑤ ——— E 「あのデパートの昆虫売り場の話とはどこかが違っている」とありますが、その違いを説明した文として最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア デパートの昆虫売り場ではカブト虫に食事も与えず、弱ったらゴミとして捨ててしまうが、ノミのサーカスではノミに人間の血を食事として与えるなど大切に扱っている。

イ デパートの昆虫売り場では生き物であるはずのカブト虫を物として扱っていたが、ノミのサーカスではノミを人間と同じ生き物とみなしている。

ウ デパートの昆虫売り場ではカブト虫は感情がないものとして商売の道具になっているが、ノミのサーカスではノミは感情があるものとして人間のパートナーになっている。

エ デパートの昆虫売り場では生きているカブト虫を商品として売っているが、ノミのサーカスではノミの芸を見せるだけでノミ自体を売り物にはしていない。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

子ねこは、たいへん 好奇心こうきしんの強い動物です。このことは、ねこを子どものときから飼った経験のある人なら、だれでも知っていることだと思います。ようやく動きまわることができるようになると、家のうちそとをくまなく探検してまわりますし、虫とか小鳥とかいったものにも、たいへん興味を示すようになります。

それは、かならずしも、虫や小鳥をたべたいからというばかりではなく、それがどんなものかをくわしく知りたいからのようです。じつは、子ねこだけでなく、一人前のおとなになったねこにも、かなり好奇心の強いものが多いようです。

たとえば、外に出たまま帰ってこないと心配していると、思いがけないほど遠いところで車にひかれていた、などという話をよくききますが、これも、好奇心にかられて、遠くまで出かけて行ったからではないだろうかと考える人がいます。

ですから①「好奇心はねこを殺す」ということわざがあるぐらいです。

しらべてみれば、ねこのほかにも好奇心の強い動物は、いくらもいるかも知れません。しかし、動物のなかで一番好奇心が強いのはなにかときかれれば、それは、ほかならぬわたくし自身、つまり、人間であるというのが正しい答えではないでしょうか。

子ねこの探検してまわるのは、せいぜい、飼主の家を中心にした町内といったところですが、人間は、まだみていない遠い国にあこがれて、大遠征だいえんせい、大航海に出かけたりします。二十世紀には、とうとう月まで飛んで行きました。

月がどんなところか、ということについては、大むかしから、数知れないほど多くの人が好奇心を燃やし、さまざまな想像をめぐらせてきたのです。②「そういう好奇心のつみ重ねが、ついに*アポロを月におくるところまで、人間の技術を進歩させたともいえるのでしよう。やがては、火星に人類が進出する日もくるのじゃないかともいわれています。」

しかし、太陽系の外にある星まで人間が行けるのは、ずっと遠い将来のことでしょう。また、太陽系といっても、太陽そのものに人間が上陸(?)することは、不可能でしょう。太陽はたいへんな高温で燃えている天体ですから、人間が生きたまま近づくことはできないと考えられているからです。

それなのに、人間は、太陽系の外にある、遠い天体のことをいろいろ知っていますし、太陽についても、たとえば、それがどのぐらいの大きさか、そこにはどんな物質があるか、ということまで知っています。

つまり、じかにそこには行かないくせに、いろいろな天体について、多くの知識を持っています。これも、そういった遠いところ、近づけないところにあるものについて、そのありさまをくわしく知りたいという好奇心を人間が持ったからのことでしょう。

その点に、③ねこの好奇心と人間の好奇心との大きなちがいがあるように思われます。

つまり、ねこの好奇心は、じぶんが歩きまわられる範囲はんいにあるもの、じかにふれたり、みたりすることができるものにかぎられるのにたいして、人間の好奇心は、それよりもはるかに広い範囲のものにむかっています。

とても行けない遠いところのもの、あるいは、とても近づけないほど危険なものについても、できるだけいろいろなことを知りたいというのが、人間の好奇心です。

それどころか、目にみえないほど小さなもの、たとえば、*原子や分子の世界についても、また、だれもおぼえていないほどむかしのころとがら、たとえば、人類が発生する以前の地球の様子、さらには、宇宙のはじまりなどについても、知りたがるのが人間の好奇心です。

あるいはまた、死んでしまったあとでどうなるのだろうか、ということにも、人間は好奇心を燃やしてきました。

からだのほうは、ほうっておけばやがてくさってくずれてしまうことは、経験でわかっています。しかし、それで個人も完全になくなってしまうのだろうか。

人間には、からだとはべつに心があつて、こちらのほうは、からだは死んだあとでも生きのこるのじゃないだろうか。

もしそうだとすれば、その心はそれからどういう世界に行くのだろうか。その世界には、神や仏や悪魔あくまといったようなものがあるだろうか。また、その死後の世界から、生きている人間の世界はみえるのだろうか。

こういう問いの答えを熱心にさがしてきた人が、むかしから、やはり数知れないほどいます。また、現在でも、死後に心に行く世界があると信じていて、その世界のことをいろいろ想像している人が、地球上に、何億となくいるといわれています。

反対に、④「そんなことは迷信めいしんだ」といいはる人もまた多数います。そういう人の中にも、いったんは死後の世界のことを好奇心を燃やしたうえで、さまざまな理由から、「そんな世界はないんだ」と考えるようになった人がかなりいるようです。

つまり、死後の世界、いわゆる天国や来世があると考える人にとつても、そういうものはないと考える人にとつても、死にかんすることからは、やはり好奇心のむかうこととがらであることにかわりはありません。

しかしながら、おそらくねこは、かなり年をとつてからでも、死ぬことについて好奇心を燃やしたりはしないでしよう。

勉強とか学問が、どのようにしてはじまったかということも、好奇心の強い人にとつては、気になることとがらの一つです。しかし、いまのところ、たしかなことはわかっていないといつてよいでしょう。

ふつう学問といわれるものの中で一番古いもの一つは、記録にもとづいてむかしのことをおしはかる学問、つまり歴史学ですが、いま

残っている一番古い歴史の本をみても、学問とか芸術とかいったもののおこりについては、かなり空想的なことしか書いてないようです。
(中略)

これはただ推量によるだけのことですが、学問のおこりは、どうも、人間の好奇心と関係があつてのことではないかと思われまふ。たとえば、歴史学の効用の一つとして、過去に人間がおかしたまちがいを知り、将来、二度とそのようなあやまりをおかさないようにする、ということがよくいわれますが、歴史学のおこりを、⑤ そういう効用をねらつてのことだけで説明するには、少しむりがあるようです。

過去のことについてくわしく知りたいという好奇心も、大いにはたらいのことだつたのではないか、と考えたほうがより自然なようです。

とにかく、いま、人びとが歴史学、あるいは、歴史学の成果としての歴史に興味を持つのは、かならずしも実用的効果をねらつてのことではないようです。

I、いま、日本のむかしのことについて書いた歴史の本がたいへんはやっています。専門の歴史学者ではない人たちまでが、遺跡をたずねたり、古い書物を読んだりしたうえで、古代日本のありさまについてのじぶんの仮説というものをたてて、それを本にしています。そういう本の中にも、たいへんよく売れるものがあります。そういう本を読んだ人が、また、古代日本についてじぶんで研究を始めます。こういつたことは、かならずしも実用的な成果をねらつてのことではないでしょう。

古代日本のことがわかつたからといって、環境問題^{かんきやうもんだい}とか経済問題とかいつた、今日当面する問題がただちに解決するわけではありません。

II、実用的なことは、いちおう関係なく、「古代日本のことが知りたい、手にとるようにそのことがわかつたら、どんなにすばらしいことだろう」と考えている人が多いからこそ、古代日本のことについて論じた本がはやるのでしょう。また、「遺跡をこわすようなことをしてはいけない」というようなことが、強く叫ばれるのでしょう。とにかく、⑥ 学問のはじまりが好奇心と関係があるという想像には、かなりもつともなところがあるようです。

(吉田夏彦『なぜと問うのはなぜだろう』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注)

* アポロ……人類を月に送るアポロ計画のために用いられた宇宙船のこと。

* 原子や分子……物質を構成する小さな単位。

問一 —— ① 『好奇心はねこを殺す』ということわざ』について、次の問いに答えなさい。

(1) 本文から、「好奇心はねこを殺す」とはどのような意味だと読み取れますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 虫や小鳥を捕まえて食べたいという気持ちは、ねこを危険にさらしてしまうということ。
- イ 遠くまで探検に行つて面白いものを見たいという気持ちは、ねこを疲れさせ、弱らせるということ。
- ウ 縄張りのすみずみまで見回りたいという気持ちは、ねこを道に迷わせ死なせてしまうということ。
- エ 目に入るものをくわしく知りたいという気持ちは、ねこを危ない目にあわせるということ。

(2) 「好奇心はねこを殺す」のように、「ねこ」を使った慣用表現を含む文として**適当でない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夏休みの間、観光地の人気レストランはねこの手も借りたい様子だ。
- イ 私の家の庭はねこの額ほどの広さなので、たくさんの野菜を育てられる。
- ウ まだ幼い子どもにも高価なものをプレゼントしても、ねこに小判だ。
- エ 彼はいつもさわがしいが、校長先生の前では借りてきたねこのようだ。

問二 —— ② 「そういう好奇心の積み重ねが、ついにアポロを月におくるところまで、人間の技術を進歩させたともいえるのでしょ

うとありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大むかしの人々も行くことのできない月にあこがれを持っており、そのころから長い期間にわたつて宇宙船を作る技術の開発は行われてきたということ。

イ 昔から人々は月の様子をいろいろと想像してきたが、ついに二十世紀に月に行こうと考える人が現れたので、月に行く技術の開発が始まったということ。

ウ 月について知りたいという気持ちを時代を超えて多くの人が持ち、それを実現させようとしたために、実際に月に行けるほど科学技術が発展したということ。

エ 月がどんなところかを想像する人が時代を追うごとにだんだんと増えてきたので、月に行くための技術開発が急がれるようにな

ったということ。

問三 ———— ③ 「ねこの好奇心と人間の好奇心との大きなちがい」とありますが、その「ちがい」の説明として**適当でない**ものを次から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア ねこの好奇心は自分で行ける**範囲**にだけ向けられるが、人間の好奇心は自分が行けない**範囲**にも向けられる。

イ ねこの好奇心は現実に存在するものにだけ向けられるが、人間の好奇心は想像上のものにも向けられる。

ウ ねこの好奇心はそのとき生きている世界にだけ向けられるが、人間の好奇心は自分が生まれる前の世界にも向けられる。

エ ねこの好奇心は自分より大きいものにだけ向けられるが、人間の好奇心は目に見えない非常に小さなものにも向けられる。

問四 ———— ④ 『そんなことは**迷信だ**』といいはる人」とありますが、筆者はなんのために死後の世界を信じない人々がいることを取

り上げたのですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 死後の世界を信じる人の意見も、信じない人の意見も平等に取り上げて、死後の世界があるかないかは現在ではわかっていないことを伝えるため。

イ 死後の世界を信じていない人の存在をあらかじめ認めて、死後の世界に対して批判的な立場を取る読者にも筆者の主張を受け入れやすくするため。

ウ 死後の世界を信じない人も一度はそれについて考えた上で否定していると明らかにして、死後の世界が人々の興味をひきつけることを裏づけるため。

エ 人間の中にもねこのように死後の世界に好奇心を持たない人がいることを示して、人間の好奇心の**範囲**も個人によって差があることを表すため。

問五

—— ⑤ 「そういう効用」の具体例として**適当でない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二〇二二年、吉野ヶ里遺跡で十年ぶりに発掘調査が行われ、一般の人々の間でも邪馬台国の場所についてなど日本の成り立ちに関わる謎への関心が高まった。

イ 戦後七十年以上経った現在でも、原子爆弾の被爆者の証言などを元に当時の被爆地の悲惨さを共有することで、広島から世界に向けて核戦争に反対するメッセージを発信している。

ウ ドイツでは、第二次世界大戦中に起きたドイツ政府によるユダヤ人に対する迫害を後世に伝えることで、人種差別が起こらない社会を築こうとしている。

エ 関東大震災時には「朝鮮人が井戸に毒を入れている」というデマのせいで罪のない人々が殺されたことをふまえて、災害などの非常時にはデマに注意するよう報道がされる。

問六

I ・ II に当てはまる語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまり イ それとも ウ しかし エ また オ たとえば

問七

—— ⑥ 「学問のはじまりが好奇心と関係がある」とありますが、どういうことですか。「実用的効果」という語を必ず用いて三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。